

学習の要点

めあて

○詩の作者は、自分の気持ちを相手に伝えるためにどんな工夫をしているだろうか？



果物

八木重吉

秋になると  
 果物はなにもかも忘れてしまっ  
 うっとり実のつてゆくらしい

◇ 次の文の感じ方の違いについて考えてみよう。

- ・実のつてゆきます …… はっきり、丁寧な感じ
- ・実のつてゆくそうだ …… 他人から聞いた感じ
- ・実のつてゆくらしい …… はっきりとはしていないが、たぶん

そうだろうと自分で考えている感じ

※ 詩の作者は、自分の気持ちを表す言葉を選んでる。主に自立語に付いているいろいろな意味を添えるはたらきをするこのような単語を「助動詞」という。

◇ 次の太字の助動詞(られる)のはたらきの違いについて考えてみよう。

- ・先生からほめられる。(受け身) …… 他のものからそうされる)
- ・五時に起きられる。(可能) …… そうすることができる)
- ・秋の気配が感じられる。(自発) …… 自然にそうなる)
- ・お客様が来られる。(尊敬) …… 相手を敬う)

※ 同じ助動詞でも、使われ方によってはたらきに違いがある。

◇ 次の太字の助動詞の形の違いについて考えてみよう。

受け身の助動詞「られる」の活用表

|     |     |
|-----|-----|
| られる | 未然形 |
| られ  | 連用形 |
| られ  | 終止形 |
| られる | 連体形 |
| られる | 仮定形 |
| られよ | 命令形 |

- ※ 先生からほめられない。(未然形)
- ※ 先生からほめられます。(連用形)
- ※ 先生からほめられる。(終止形)
- ※ 先生からほめられるとき。(連体形)
- ※ 先生からほめられれば。(仮定形)
- ※ 先生からほめられよ。(命令形)

※ 助動詞は、後に続く言葉によって形が変化する(活用がある)。

※ ここに示した助動詞以外にもたくさん助動詞がある。

まとめ

● 詩の作者は、自分の気持ちを相手によりわかりやすく伝えるために、「助動詞」を効果的に使っている。

● 助動詞には、いろいろなはたらきがあり、活用がある。



練習問題

次の文の( )に、使役の助動詞「せる」を適切な形に活用させて書きなさい。

- ア かわいい子には旅をさ( )！ イ 大事な試合に出さ( )た。
- ウ 普段から運動さ( )ばよい。 エ 交通ルールを守ら( )よう。
- オ 散らかしたところを掃除さ( )。カ 一人で座ら( )ことはない。

解答

- ア せよ
- イ せ
- ウ せれ
- エ せ
- オ せる
- カ せる